2022年度

京都ヒューマン賞

2022年6月7日（火）11:00～12:00

リーガロイヤルホテル京都

公益財団法人 京都オムロン地域協力基金

2022年度 京都ヒューマン賞　受賞団体紹介

NPO法人 心臓病の子どもを守る京都父母の会

所在地：京都市左京区下鴨下川原町30
京都葵教会内
理事長：江原 郁子 氏
経　歴：1965年　心臓病の子どもを守る京都父母の会が発足
1975年　心臓病児のための自主保育園「パンダ園」を開園

1965年、有志により「心臓病の子どもを守る京都父母の会」発足。心臓病児とその保護者・きょうだい支援の他、育成医療の全額公費負担など行政への働きかけに尽力してきた。
1975年、心臓病児のための自主保育の場「パンダ園」を開園。週2回親子通園型の保育を行っている。病児が安心して過ごせる環境づくり、季節ごとの豊かな遊びや行事、ボランティアによる美味しい給食もあり、きょうだいも卒園生も保護者だけでも気軽に立ち寄ることができる温かい居場所である。
また、サマーキャンプや遠足、クリスマス会など卒園後も交流できる機会を設け、専門家を招聘して医療・福祉の相談会を開催。卒園生の就学相談、病児きょうだいや子どもを亡くした家族のサポートも行っている。心臓病児だけでなく様々な病気を抱えた子ども達や健常児も受け入れ、障害児の理解者を増やし共に育ち合うことを大切にしている。

認定NPO法人 道普請人

所在地：京都府京都市下京区東塩小路向畑町20-13
プレサンス京都駅前502
理事長：木村 亮 氏
設　立：2007年12月3日

道普請人（みちぶしんびと）は、「道普請」のこころを持った「人」の集まりで、世界の貧困削減を目指してその輪を広げる団体である。「自分たちの道は自分たちで直す」という意識を広め、人々の生計向上に向けた自信とやる気を引き出す活動を行っている。開発途上国の農道や人々の生活道路は、一日あたりの通行量は100台程度と少ないが、沿線住民にとってはライフラインである。その多くはいまだに未舗装で、雨季には通行不能となる箇所が生じ、学校、病院、市場へのアクセスが困難となる。そこで、道普請人は、地域住民が自分たちで、身の回りの材料と人力で道路を整備できるように、技術移転活動を行っている。住民らと一緒に整備方法を計画し、資機材を調達し、作業を通して技術指導する。主な手法の一つに、土を人力で叩いて硬くする「土のう」の利用がある。この道路整備は、市場で作物を販売したい農家グループへの支援に始まり、学校関係者による通

病院では保護者の心のケアや障害者団体の紹介まで行き届かない現状があり、病児家族は辛い思いを抱え込んでしまうことが多い。パンダ園は病児を保育するだけでなく、病児の家族に寄り添い、同じ悩みを持つ家族や経験豊かな保育士と共に、子育てを楽しみ不安を乗り越えていけるようサポートしている。生まれてくる全ての子どもが素晴らしい命であり、希望であることを伝えられる場所であり続けたいと願い、活動を続けている。

1965年　有志により「心臓病の子どもを守る京都父母の会」発足
育成医療の全額公費負担、小児慢性特定疾患として内科的治療の無料化など、行政・医療関係者への働きかけを行う

1975年　心臓病児のための自主保育園「パンダ園」を開園
（心身障害児福祉会館を会場として週1回保育）

1977年　パンダ園の会場を京都葵教会に移す（週2回保育開始）

1981年　第1回キャンプ

2002年　傷跡が気にならない水着ファッションショー開催

2006年　機関紙『はあとブリッジ』創刊

2007年　かづきれいこ氏講演会
「傷跡をきれいにみせる化粧（リハビリメイク）」

2011年　松居直氏講演会「絵本のちから」
守る会45周年・パンダ園35周年記念
子どもを亡くした家族のための居場所「おしゃべり部屋」開始

2012年　病児の就学相談「パンダっこ応援隊」発足

2017年　みんなが元気になる美術作品展とチェンバロ演奏会

2018年　病児のためによりよい活動を継続させるためNPO法人化する

2021年　野辺明子氏オンライン講演会「命あるがままに」

学路整備、保健所関係者によるアクセス道路の補修、難民キャンプ内での道路整備など、多様な分野と世界各地（30ヵ国）で展開されている。また、雇用機会に恵まれない若者に対して、土のう工法を含む基礎的な道路整備技能の実地研修も行っている。この研修をきっかけに若者がビジネスへの関心を持ち起業し、事業を通してインフラ整備に貢献する事例に発展している。京都発のユニークな国際協力手法であり、国際社会の一員として持続可能な開発目標の達成に向け、今後も活動を進める。

2007年　NPO法人道普請人を設立

2009年　パプアニューギニアでアジア開発銀行無償事業を受託

2009年　ケニアに事務所を開設し事業を開始

2010年　ケニアにて環境保全型農業への支援事業を開始

2012年　ケニアで国際労働機関より若者雇用促進事業を受託

2013年　ミャンマーで現地NGOと連携し事業を開始

2014年　アフリカ連合での安倍総理のスピーチ内で団体活動が紹介

2014年　ブルキナファソに事務所を開設し事業を開始

2014年　土木学会100周年事業で市民普請大賞を受賞

2015年　フィリピンにて他NPOと連携した事業を実施

2016年　タンザニア地方行政からの委託事業を実施

2018年　ルワンダに事務所を開設し事業を開始

2019年　ウガンダに事務所を開設し事業を開始

2020年　ビクトリア湖小島での水環境改善事業を実施

2020年　ウガンダで国連開発計画より難民居住区整備事業を受託

2021年　グローバルフェスタ2021JAPANにて活動紹介

2021年　ケニアにて世界銀行無償事業を受託

受賞者・団体一覧

1986年3月

■ヒューマン大賞

伊東 祐純 様　子供たちの健全育成とユネスコ会などの活動
奥田 東 様　福祉思想の啓発活動
松井 かつゑ 様　中国留学生援助活動と両国の友好に貢献

1986年度

■ヒューマン大賞

嶋田 啓一郎 様　社会福祉の理論体系の確立に貢献
吉村 孫三郎 様　日中友好の架け橋的存在として活躍

1987年度

■ヒューマン大賞

亀山 千代 様　老人福祉活動
嶋津 峯真 様　精神薄弱児者の生活指導
湯浅 祐一 様　府民スポーツの振興に貢献

1988年度

■ヒューマン大賞

朝隈 善郎 様　陸上競技の指導者として貢献
立石 一真 様　心身障害者の雇用促進、社会福祉の向上に貢献
武間 冨貴 様　幼児教育・女子教育の進歩向上に尽力

1989年度

■ヒューマン大賞

ジュリアス・マリー・バーガー 様　肢体不自由児及び重症心身障害児の福祉向上に貢献
四手井 綱英 様　自然保護の取組み、環境重視の啓発運動に貢献
八木 清 様　ボーイスカウト運動と子供たちの健全育成に貢献

■ヒューマンかざぐるま賞

大塚 全教 様　障害のある人に絵を通して生きる喜びを与える活動
荻野 忠夫 様　民生委員として地域福祉の向上に貢献
藤本 守 様　点字奉仕活動を続け障害のある人の自立に貢献
(社)京都いのちの電話 様　24時間体制での電話相談によるボランティア活動

1990年度

■ヒューマン大賞

川村 つや 様　障害児者のノーマライゼーションに貢献
栗林 四郎 様　全国身障者スポーツ大会に貢献
中川 正文 様　京都の児童文化と児童福祉の風土作りに貢献

■ヒューマンかざぐるま賞

桑原 秀雄 様　盲導犬の普及に貢献
田中 伊太郎 様　民生児童委員として地域福祉の向上に貢献
守袖 三郎 様　教育者として難聴児の教育と生活指導に貢献

1991年度

■ヒューマン大賞

岩井 郁子 様　ガールスカウト運動を通じ感性豊かな子女の育成に貢献
芝田 徳造 様　障害者スポーツの普及、指導に貢献
園部 道 様　乳幼児の健全育成に創意工夫など児童福祉事業の運営

■ヒューマンかざぐるま賞

池見 孝治 様　老人福祉運動の先駆者として老人福祉組織の基盤整備の充実
石津 利幸 様　点友会会長　田島 ノブ 様商工会議所婦人部の結成 など地域福祉や女性の地位向上に貢献
京都こんにちは会 様　高齢者に生きがいと愛とふれあいを与えるボランティア活動

1992年度

■ヒューマン大賞

岡本 由鶴子 様　ボランティア活動を通じ、地域福祉の向上に貢献
高井 隆秀 様　高齢化社会に対応する福祉施策の基盤を確立
藤田 静夫 様　スポーツ界のリーダーとして体育振興に貢献

■ヒューマンかざぐるま賞

赤松 マサエ 様　精神障害児者の自立と生活指導に尽力
山本 徳治 様　自治会長として地域社会活動・福祉の風土作りに貢献
寮育キャンプリーダーグループ 様　京都障害児福祉協会寮育キャンプでのボランティア育成・指導

1993年度

■ヒューマン大賞

蟹江 廣吉 様　身体障害者福祉法による援護施策の改定に尽力
高島 雅行 様　児童、制度の保健教育の普及に貢献
馬庭 京子 様　誕生日ありがとう運動を通じ障害者の自立の援助

■ヒューマンかざぐるま賞

岡 たね 様　母子寡婦家庭の文化的生活の安定と婦人の地位向上
寺澤 武雄 様　アイバンクでの献眼登録、角膜提供に貢献
京都SGGクラブ 様　善意通訳にて京都の歴史文化の理解を深める活動
京都中国料理厨師会琢磨会 様　長年の老人ホーム・養護施設での中国料理の出張

1994年度

■ヒューマン大賞

大塚 達雄 様　京都障害児福祉協会を独立発展、福祉事業の中核組織に育成
信ケ原 良文 様　児童、青少年の健全育成等、全国に先駆け夜間保育を開設
蜂須賀 弘久 様　体育教育を通じて府民の体位、健康の向上に貢献
山本 公子 様　全国初「国際女子留学センター」での留学生に多大の援助

■ヒューマンかざぐるま賞

中澤 真琴 様　府盲人協会の音楽部の設立で視覚障害者福祉の増進
平田 哲 様　アジアにおける国際福祉の先駆的取り組みに貢献
京都おもちゃライブラリー連絡協議会 様　障害児の発達援助や相互理解、融合に貢献
京都河川美化団体連合会 様　河川美化運動を通し市民参加の町作り運動に貢献

1995年度

■ヒューマン大賞

高橋 美智子 様　京都のわらべ歌の収集、採譜等地域文化の保存に尽力
長橋 榮一 様　障害者の自立生活運動のリーダーとして活動
樋口 和彦 様　ホスピス運動や癌患者のクオリティ・オブ・ライフ向上に尽力

■ヒューマンかざぐるま賞

秋田 幸代 様　PTA組織の活性化、女性の地位向上に貢献
柴橋 悦子 様　共同作業所での重度身体障害者の自立と生活指導に貢献
高石 ともや 様　日本各地で青少年健全育成、福祉文化の向上に貢献
堀川福祉奉仕団 様　老人福祉運動の先駆的ボランティアとして高齢者福祉に貢献

1996年度

■ヒューマン大賞

畦田 正雄 様　孤児院イメージを払拭、「平安徳義会」を名実兼備の施設に育成
金井 秀子 様　女性の地位向上、男女共同参画社会の実現に先導的役割
清水 榮 様　広島・ビキニ環礁調査が核兵器・戦争廃絶の呼びかけの端緒となる

■ヒューマンかざぐるま賞

永田 哲也 様　知的障害者施設での先駆的な散髪ボランティア活動
早狩 実紀 様　連続10回都道府県対抗女子駅伝の代表選手
KBSカタツムリ大作戦 様　交通事故撲滅キャンペーンやかたつむり基金で交通遺児奨学金に貢献

1997年度

■ヒューマン大賞

榊田 八重子 様　古武道としての薙刀をスポーツ的性格をもなすべく腐心
中西 美世 様　京都商工会議所婦人会組織化に奔走、地域繁栄と福祉、文化増進に寄与
早川 一光 様　地域医療、老人福祉に尽力

■ヒューマンかざぐるま賞

あまんきみこ 様　童話を通じて子ども達の人間性の健全育成などに貢献
京都BBS連盟 様　少年の非行問題に取り組み、青少年健全育成に貢献
(社)京都ボランティア協会 様　ボランティア活動の普及拠点として心豊かな社会を実現

1998年度

■ヒューマン大賞

内山 茂生 様　地域スポーツの振興と障害者スポーツの振興に尽力
小倉 美津子 様　女性スポーツ団体の組織化と振興に尽力
廣瀬 義彦 様　京都中央少年少女合唱隊を設立

■ヒューマンかざぐるま賞

玉中 修二 様　視覚障害者の福祉向上に貢献
京都アマチュア・マジッシャンズクラブ 様　趣味を生かしたボランティア活動で社会福祉活動
重度身体障害者マリアの会 様　生活、作業、精神指導を行い重度身体障害者の自立に貢献

1999年度

■ヒューマン大賞

伊藤 さかえ 様　主婦連創立と同時に入会し、実績を積まれた地域の活動家
柴谷 篤弘 様　科学者と釈迦の関係に着目し環境問題を高い見地から見据えてリード

■ヒューマンかざぐるま賞

関 五郎 様　40年の長きにわたり身体障害者福祉の充実に尽力
西村 ゆり 様　音楽会での障害者のための点字プログラムの作成
(社)呆け老人をかかえる家族の会 様　老人痴呆症の介護者の支援に尽力

2001年度

■ヒューマン大賞

浅岡 美恵 様　京都議定書の採択に気候ネットワークの代表として活躍
大谷 藤郎 様　ハンセン病患者、回復者の人権擁護に取り組む
大谷 實 様　犯罪の被害者、家族の人権を守り、経済的、精神的支援で活躍

■ヒューマンかざぐるま賞

(社)京都府建築士会女性部会 様　UDによる環境に調和した町づくりで女性の地位向上
だん王友の会 様　半世紀にわたりユニークな活動を通じて青少年健全育成
堀川と堀川通を美しくする会 様　河川美化による世界遺産の保全や新しい町作り運動

2002年度

■ヒューマン大賞

上田 正昭 様　人権問題の擁護活動や研究、社会貢献で活躍
佐藤 登久代 様　JDA代表としてカンボジアにおいて地雷除去、学校建設、村づくり
高田 英一 様　国際舞台で聴覚障害者の福祉向上や人権擁護に活躍

■ヒューマンかざぐるま賞

介助犬をそだてる会 様　介助犬の育成インフラ作りと普及
梶 寿美子 様　自ら障害を克服し、障害者に希望を与え障害者の社会参加に貢献
橋詰 良彦 様　森林セミナーなどボランティア活動で自然環境保全に貢献

2003年度

■ヒューマン大賞

嘉田 由紀子 様　世界子ども水フォーラム開催で世界の子ども達の交流に貢献
黒田 隆男 様　精神障害者の受皿としての共同作業所作り運動に取り組む
吉岡 壽恵 様　長く児童や幼児の教育に携わり「躾」を重視した幼児教育を実践

■ヒューマンかざぐるま賞

京都自然教室 様　自然観察を通して自然の豊かさを感じる感性を持つ子ども達を育成
ザイラーご夫妻 様　日吉町かやぶき音楽堂で地域文化の活性化や伝統生活保護に貢献
吉松 時義 様　車椅子駅伝で障害者を勇気づけ、心のバリアフリーを訴える

2004年度

■ヒューマン大賞

上平 貢 様　青少年の健全育成と京都市の芸術文化振興に貢献
平田 真貴子 様　京都いのちの電話開設で自殺予防に尽力
和田 恵美子 様　衣装デザイン分野で活躍され、女性の地位向上に貢献

■ヒューマンかざぐるま賞

京都家庭文庫地域文庫連絡会 様　母親たちによる家庭文庫活動で青少年の健全育成に貢献
京都ライトハウス 様　視覚障害者福祉の向上に貢献
京のアジェンダ21フォーラム 様　「京のアジェンダ21」の実践母体として活躍

2005年度

■ヒューマン大賞

小野 了代 様　25年間にわたり、市民の立場でヨルダン、アフガニスタン、イランなどで災害や紛争後の緊急支援に始まる自立支援化活動で貢献
藤本 文朗 様　ベトナムにおける障害児教育、福祉支援に貢献
湯川 スミ 様　世界連邦運動で会長として地球平和、紛争解消を世界にアピール

■ヒューマンかざぐるま賞

京都市手話学習会「みみずく」 様　日本初の手話サークルとして、聴覚障害者との交流活動などで福祉向上に貢献
京都市要約筆記サークル「かたつむり」 様　要約筆記などの活動で聴覚障害者の福祉向上に貢献
里山ネットワーク世屋 様　過疎が進む宮津市世屋で、伝承技術の継承保存や棚田でのコメ作りで地域再生に貢献

2006年度

■ヒューマン大賞

北村 よしゑ 様　「オリーブの会」共同作業所を開設し、精神障害を持つ人々を支援
竹下 義樹 様　日本で最初の全盲の弁護士として、視覚障害者、社会的弱者を支援
徳川 輝尚 様　わが国初の「身体障害者療護施設こひつじの苑」を開設、療護施設利用者の生活の質向上や施設従事者の勤務条件改善に尽力

■ヒューマンかざぐるま賞

NPO法人丹波マンガン記念館 様　マンガン鉱山における在日コリアン、被差別部落出身者らの労働の実態や歴史などの資料展示で差別や人権問題の啓発活動に尽力
人形劇団京芸 様　昭和24年の創立以来、一貫して小・中学校の視聴覚教育として学校公演を継続
ユース21京都 様　京都市成人の日式典や全国車いす駅伝競走大会で移送、介助、式典のボランティア活動

受賞者・団体一覧

2007年度

■ヒューマン大賞

玄武 淑子 様　女性として初めて京都市老人クラブ連合会会長に就任、京都市の老人クラブの育成と老人福祉の推進に貢献

中川 恵次 様　「菟道明星園養護老人ホーム」の理事長に長く就任し、宇治の老人福祉、地域文化や町づくりに貢献

吉永 太市 様　知的障害者施設の指導者として、粘土を使った造形表現指導とその作品展覧会の開催

■ヒューマンかざぐるま賞

株式会社ウイメンズカウンセリング京都 様
カウンセリング、各種講座の開設などの活動で、性暴力やDV被害女性を救済支援

社会福祉法人 京都ハチの会 様
授産施設の自主運営を始め、京都市内で初の精神障害者福祉ホームで地域医療に貢献

京都子育てネットワーク 様
京滋の子育てサークルのネットワークとして、地域の「子育て、親育ち」できる仲間作りを応援

2008年度

■ヒューマン大賞

芹澤 栄之 様　50年の長きに亘り、献身的に母子支援に取り組む

所 久雄 様　35年に亘り、福祉にかかる人材の育成、新しい福祉の研究、障害者の自立を目指した地域福祉の向上に取り組む

中畔 都舎子 様　30年以上の地域婦人会活動を通じて、男女共同参画社会の推進に貢献

■ヒューマンかざぐるま賞

春日住民福祉協議会 様
自治体活動をベースに、自治・福祉・防災の三位一体の事業で、高齢者・障害者・こどもたちが安全で安心して暮らせる春日の町づくりに取り組む

京都こどもセンター 様
のびやかで豊かな子ども時代を過ごすことの出来る社会環境づくりに貢献

京都障害者スポーツ振興会 様
障害のある人々にスポーツの素晴らしさや楽しみを伝え、障害者スポーツの輪を拡大

2009年度

■ヒューマン大賞

岩本 富雄 様　環境カウンセラーとして地球環境整備に貢献

高見 国生 様　認知症の当事者と家族の支援活動、啓発普及運動を積極的に推進

人見 君子 様　障害児教育の草分けとして61年にわたって障害者支援を継続

■ヒューマンかざぐるま賞

京都市里親会 様
家庭に恵まれない児童の福祉向上のため、43年間に亘り地道な活動を維持継続

NGO緑の協力隊・関西澤井隊 様
アジア各国で砂漠緑化の活動を行い、苗木7790本を植林し地球温暖化防止に貢献

NPOリボーン・京都 様
開発途上国の生活困窮者に対して洋裁等の職業訓練を行い、経済的自立の促進や貧困の撲滅に貢献

2010年度

■ヒューマン大賞

谷垣 雄三 様　西アフリカ・ニジェールで30年にわたる医療活動を私費や京都・峰山の同級生の寄付金で運営を継続

宮井 久美子 様　京都ボランティア協会において中心的役割と使命を果たす

友久 久雄 様　子供から老人までを対象とした人間味溢れる幅広い活動で、地域社会福祉に大いに貢献

■ヒューマンかざぐるま賞

竹文化振興協会 様
「竹」に関する文化・芸術、産業開発、研究・教育の全般について啓蒙活動を展開

朗読ボランティア「さえずり会」 様
ボランティア活動として視覚障害者にとって役立つ暮らしの情報発信や活動の援助に貢献

唐橋社会福祉協議会 様
住民自治に根ざし地域住民の誰もが安心して暮らせる街づくりに貢献

2011年度

■ヒューマン大賞

玉川 和子 様　京都府民の健康の保持増進及び疾病予防に大いに貢献

野木 武 様　京丹後市で環境保全型農業やユニークな技術導入により地球温暖化対策を実践

森　昇 様　私財を投じ心身障害者の就労モデルを構築し、共生社会を構築

■ヒューマンかざぐるま賞

公益財団法人 関西盲導犬協会 様
発足から30年以上にわたり質の良い盲導犬の育成・盲導犬指導員の養成に貢献

認定NPO法人 きょうとグリーンファンド 様
「省エネ・節電・自然エネルギーの普及」目的で多くの「おひさま発電所」を設置し、地域の環境学習に貢献

修学院第二学区社会福祉協議会 様
高齢者介護予防などの福祉活動、中学生とのアルミ缶収集の資金援助活動などを実践

2012年度

■ヒューマン大賞

武田 道子 様　京都市域で福祉・教育・文化など多方面で奉仕活動に貢献

細井 恵美子 様　高齢者福祉施設及び在宅介護の包括的な取り組みに貢献

吉田 秀子 様　女性の社会参加支援、子育て応援、元気づくりの3つ事業を柱に展開

■ヒューマンかざぐるま賞

特定非営利活動法人 京都難病連 様
難病を抱える患者や家族を支える相談事業などを展開し、交流会の開催・サポーター養成の研修会開催などの活動を実践

城陽点字サークル たんぽぽ 様
視覚障がい者の生活、文化、社会参加に不可欠な情報提供に貢献し、点字楽譜の先駆けとして料理レシピなど多彩な点字活動を実践

特定非営利活動法人 山科醍醐こどものひろば 様
山科醍醐地区を中心に、子ども達の発育環境の充実に取り組み、特に生活貧困問題への取り組みを実践

2013年度

■ヒューマン大賞

加藤 博史 様　大学で福祉教育に携わりながら、地域福祉実践活動も重視し、京都におけるボランティア活動振興の基盤づくりに貢献

谷岡 孝子 様　病院ボランティアコーディネーターとして、患者と病院、ボランティア間の調整役を務める

野上 芳彦 様　終戦直後から長年にわたり、知的障害児の福祉や教育問題について実践し、社会福祉関連の要職を歴任し、京都の福祉向上の先頭に立って貢献

■ヒューマンかざぐるま賞

特定非営利活動法人 環境市民 様
日本の環境NPOの草分け的存在として、持続可能で豊かな社会・生活の実現に貢献

社団法人 京都精神保健福祉推進家族会連合会 様
50年に亘り、精神障害者への偏見をなくし、障害者の生活の自立や社会参加に貢献

社会福祉法人 るんびに苑 様
京都府下で唯一の情緒障害児短期治療施設として、虐待や育児放棄などにより発達に障害をきたし、家庭や社会から疎外されていた児童・生徒の育て直し

2014年度

■ヒューマン大賞

小國 英夫 様　在宅要介護高齢者のために、「生涯地域居住」を掲げて、地域に密着した独創的な活動を展開

櫛田 匠 様　乳児や児童、高齢者のための施設を運営し、京都府北部で人々が幸福であることを目指して先頭に立って活動

髙木 徳子 様　自閉症研究に関する第一人者として、自閉症児のためにフィールドワークに重点をおいた活動を実践

■ヒューマンかざぐるま賞

特定非営利活動法人 コンシューマーズ京都 様
水銀を含む蛍光管の適正処理・再資源化を求める各種活動を継続

特定非営利活動法人 テラ・ルネッサンス 様
主に紛争地域において、地雷除去、子ども兵の社会復帰、紛争被害者の自立など幅広い支援活動を行い、多くの課題解決に貢献

社会福祉法人 ゆりかご保育園 様
40年以上にわたり、難病を抱えた障がい児など多くの障がい児を受け入れ、健常児と一緒に保育することで、「みんな一緒に育つ保育」を実践

2015年度

■ヒューマン大賞

出店 知之 様　障がいのある子どもを兄弟にもつ健常児を対象とする自然体験型キャンプの「冒険キャンプ」を現場指導・責任者として30年にわたって実施

松井 三郎 様　京都府民の水源である琵琶湖の水質改善に貢献。その成果や経験を国際的に普及させ、途上国ではエコロジカル・サニテーションを普及させている

森田 美千代 様　1983年に日本で初めて障がい者シンクロナイズドスイミングに取り組み、1992年からは京都で全国的な大会を開催し、身障者シンクロの一層の普及に尽力

■ヒューマンかざぐるま賞

大山崎竹林ボランティア 様
安全な伐採作業マニュアルの作成など大山崎町の荒廃竹林（竹藪）の整備に貢献

特定非営利活動法人 子育て支援コミュニティ おふいすパワーアップ 様
子どもを持つ幸せを感じられる親を増やすために子育てに関する多くの情報を発信

フィールドソサイエティー 様
寺林や里山といった身近なフィールドで環境学習活動を継続

2016年度

■ヒューマン大賞

石倉 紘子 様　自死遺族サポートチーム「こころのカフェ きょうと」を設立し、家族や身近な人を自死自殺で失った遺族を支援する活動に注力

佐々木 和子 様　「京都ダウン症児を育てる親の会」（トライアングル）の初代会長として、親が孤立せず、安心して楽しく子育てができるよう尽力

深尾 昌峰 様　京都における初めての中間支援組織「きょうとNPOセンター」や「公益財団法人京都地域創造基金」を設立するなど、市民活動団体やボランティア団体の活動基盤の構築に貢献

■ヒューマンかざぐるま賞

認定NPO法人 アンビシャス 様
人と動物が共生するやさしい社会の実現を目指し、高齢者施設やホスピスなど病院施設へのドッグセラピー活動を通じて、こころと身体を癒すための活動を展開

特定非営利活動法人 地域環境デザイン研究所 ecotone 様
祭やイベントを対象に、使い捨て容器を繰り返し使える「リユース食器」に置き換える仕組みを全国に先駆けて構築し、大幅なごみ削減を実現

にこにこトマト 様
京大病院小児科に入院中の子どもたちと付添いのご家族のために「楽しく豊かな時間」を届けるため、平日のほぼ毎日、バラエティーに富んだ「遊び」を提供

2017年度

■ヒューマン大賞

桑原 教修 様　長年にわたり児童福祉分野のリーダーとして、社会的養護を必要とする子どもたちに寄り添い、よりよい育ちと自立のための活動に注力

新藤 崇代 様　障害のある子どもたちが、音楽（ピアノ等の楽器演奏や歌）を通して楽しい時間を過ごし、心身ともに安定して過ごせるよう、音楽指導を20年に亘って実践

■ヒューマンかざぐるま賞

認定NPO法人アクセス―共生社会をめざす地球市民の会 様
フィリピンの貧しい地域で子どもに教育を、女性に仕事を提供し、住民たちで課題解決する取り組みを目指して活動を展開

特定非営利活動法人 京都DARC 様
薬物を止めたいけど止められないという依存症に陥った人たちの回復を支える拠りどころ、居場所作りを目的に活動を展開

京都YMCAこおろぎ 様・京都YMCA長岡こおろぎ 様
朗読ボランティアグループとして約30年間に亘り、視覚障害者（リスナー）に様々な情報を録音・編集して発信

2018年度

■京都ヒューマン賞

鷲巣 典代 様　"認知症の人にやさしい地域づくり"に関する活動を続け、日本の認知症施策や「家族の会」など認知症関係団体の活動について発信

京都YWCA・APT 様
26年間に亘り、外国にルーツのある方が日本で暮らす中で直面する問題について、多言語電話相談などで支援

特定非営利活動法人 八幡たけくらぶ 様
男山周辺の里山の環境を保全するため、竹林の整備や子ども向けの竹細工教室を開催

2019年度

■京都ヒューマン賞

山田 尋志 様　施設での高齢者個別ケアの実現や地域密着型拠点の展開など、既存制度の枠組みを超えた提言とその実践により、わが国の社会福祉を向上・発展させてきた

社会福祉法人 えのき会 様
重い障害のある人が、地域で当たり前に暮らせることを目指して「榎の会」を結成して以来、障害のある人や家族を支える支援を充実させてきた

はだしのコンサート実行委員会 様
「貴方の拾ったゴミが入場券」を合言葉に、琴引浜に漂着したゴミを拾い集め、その種類や量を調査するビーチクリーンアップ活動と手作りの環境啓発コンサートを開催してきた

2020年度

■京都ヒューマン賞

工藤 充子 様　少子高齢化が進む社会にあって、孤立する家族に寄り添い、行政と市民が連携し、安心できる住みよいまちづくり活動を行ってきた

特定非営利活動法人 京都マック 様
さまざまな依存症から回復するためのプログラムを提供し、依存症者が心と身体の健康を取り戻すための支援事業を実施。広く依存症に関する啓発活動も展開してきた

京都森林インストラクター会 様
専門知識や技術を生かし、森林・林業の大切さや森林での楽しみ方を伝える幅広い普及・指導活動を行い、京都の貴重な森を守り育ててきた

2021年度

■京都ヒューマン賞

岡本 民夫 様　ボランティア講座の開設など地道な啓発普及活動を継続し、京都府民にボランティア文化が根付く礎を築いた

中西 豊子 様　ジェンダー平等の社会に向けて、全国初の女性情報総合サイトを創出するなど、男女共同参画の推進に功績をあげた

京都オムロン地域協力基金について

社会貢献活動を行っている皆様を応援しています。

公益財団法人京都オムロン協力基金は、京都府内において、地域の社会福祉、青少年の健全育成、男女共同参画の推進、生活環境・地球環境の整備を対象分野に、顕彰事業や助成事業を行い、地域社会の発展に寄与することを目指しています。

公益財団法人 京都オムロン地域協力基金

所　在　地：京都市下京区油小路通塩小路下る
TEL:075-343-7211 ／ FAX:075-365-7234

理　事　長：立石 文雄（オムロン株式会社　取締役会長）

沿　　革：1984年3月　財団法人伏見信用地域協力基金として設立
2000年12月　財団法人京都みやこ地域協力基金を経て、
財団法人京都オムロン地域協力基金として承継
2011年10月　公益財団法人へ移行

基 本 財 産：2億3,500万円（財団法人京都みやこ地域協力基金から承継）

特 定 資 産：オムロン株式会社株式 20万株（立石信雄氏から寄贈）

ホームページ：https://www.omron.com/jp/ja/about/social/fund/

■ 顕彰事業

オムロン基金の事業対象分野を中心として、広く社会貢献活動をされ、顕著な功績のあった京都と関わりのある個人や団体・グループを「京都ヒューマン賞」として顕彰しています。顕彰を契機にさらに活動が活性化され、また活動の芽が育まれることも期待しています。

外部有識者による当基金の選考委員会において選考審査を行い、理事会において最終決定します。

京都ヒューマン賞贈呈式

■ 助成事業

京都府内において、社会貢献活動をされている団体や個人に対して、イベントを開催される際の費用支援として、助成金を提供しています。

環境保全活動のために必要な機材・備品の購入費用に対し、また、経済的に困窮している女性たちが、社会的課題の解決に向けて交流するための経費の一部も助成しています。

2018年度からは、「オムロン基金 子ども食堂助成制度」を創設し、子ども食堂の開設および運営費用の一部を助成しています。

留意事項

●原則として、イベントについては助成金額はイベント事業予算の50%以内です。
●施設の改修工事等の資産的要素となるものには助成しません。
●助成対象となるイベント終了後、原則1ヶ月以内に、事業報告書および収支報告書、領収書のコピーを提出いただきます。
※詳しくはホームページの「助成制度について」をご参照ください。
https://www.omron.com/jp/ja/about/social/fund/support/

助成テーマ例

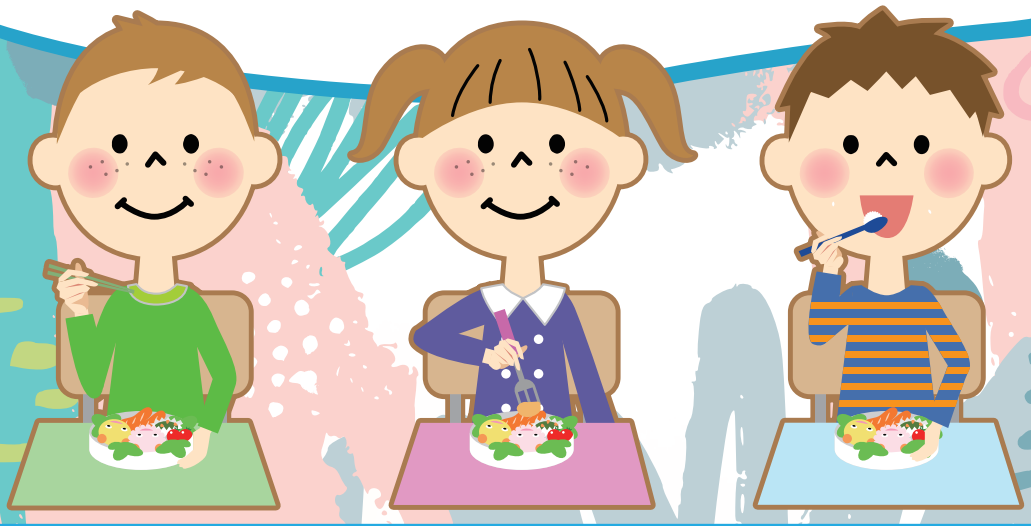
子ども食堂への助成

ダウン症啓発のバディウォークイベント

子ども食堂を応援します

2022年度

オムロン基金
子ども食堂助成制度



公益財団法人 京都オムロン地域協力基金（オムロン基金）は、様々な事情から食事の問題を抱える子どもたちやその保護者等のために、子ども食堂を開設および運営するための費用の一部を助成します。

京都府や京都市などから子ども食堂の開設および運営費用に対する補助金を受給している、または受給予定である子ども食堂もオムロン基金の助成制度に申し込むことができます。

年間事業実施計画や収支予算書などの書類については、京都府の「きょうとこどもの城づくり事業（きょうと子ども食堂）」の補助金申請書類を共用します。オムロン基金に助成申請される際には、オムロン基金独自様式の申請書類と併せて、京都府の申請資料をご提出ください。事業実績報告書を提出の際も同様です。

応募書類はオムロン基金のホームページからダウンロードができます

https://www.omron.co.jp/about/social/fund/

助成対象

- 京都府内で法人や団体が非営利活動として開設・運営する子ども食堂であること。
  注:個人での活動は対象とはなりません。
- 毎月1回（年間12回）以上、1回あたり2時間以上、主に低所得世帯やひとり親家庭の子どもおよびその保護者等を対象とする子ども食堂を開設予定または運営していること。
- 毎回、概ね20食以上（スタッフ分を含む）の食事を無料または低料金で提供すること。
- 子どもたちや保護者等に子ども食堂の開催案内を行い、周知に努めること。
- 食品衛生責任者養成講習会修了者など食品衛生責任者となることができる資格を有する者を子ども食堂の食品衛生責任者として定め、衛生面等で調理従事者の指導に努めること。
- 食品衛生管理（調理場所を含む）および食物アレルギー等について、保健所の指導を受けること。
- ボランティア保険等の保険に加入すること。
- 利用者およびスタッフの体温測定や手洗い、換気の徹底、アルコール消毒液等を用いた清掃、3つの密の回避など、新型コロナウイルス感染症の拡大防止を図ること。

次に掲げる子ども食堂は助成対象としないものとします

- 特定の政治的活動や宗教の布教を主たる目的とする団体等が子ども食堂を実施している場合。
- 暴力団等の反社会的勢力と関係がある、または関係の疑いがある個人や法人、団体が関係するもの。
- その法人または団体に助成することにより、不偏不党という当基金の立場に影響を及ぼす可能性があると判断される場合。
- 助成審査過程において、助成対象としてふさわしくないとの意見が付されたもの。

助成上限金額

年間利用人数により、年間助成金額の上限を設定します。

年間利用人数	助成上限金額
300人未満	12万円
300～499人	16万円
500～999人	20万円
1,000～2,999人	30万円
3,000～4,999人	40万円
5,000～6,999人	60万円
7,000～8,999人	80万円
9,000人以上	100万円

助成内容

- **助成対象経費**

  運営費助成：調理用消耗品購入費、調理器具・什器類購入費（事前に認められたもの）、食材購入費、水道光熱費、会場使用料、保険料、広報・通信費、謝金、旅費・交通費等

  開設費助成：調理用消耗品購入費、調理器具・什器類購入費、軽微な建物修繕費、営業許可申請等に関わる経費等

  京都府の「きょうとこどもの城づくり事業」の補助金対象外経費となるものについても、オムロン基金の助成対象となるケースがあります。事前にオムロン基金事務局までご相談ください。

- **応募受付期間**

  随時受付
  ※助成申請までに前年度の実施報告を提出していること。

- **応募方法**

  つぎの申請書類を当基金事務局までご提出ください。
  1)【オムロン基金様式①】助成申請書（子ども食堂用）
  2)【京都府第1号様式②－1】年間事業実施計画
  3)【オムロン基金様式②】実施体制、参加費
  4)【京都府第1号様式③】収支予算書（運営費）
  【京都府第2号様式②】収支予算書（開設費）
  【オムロン基金様式③】京都府補助金対象外経費　予算書

審査について

- 提出された応募書類について当基金事務局で事前審査を行った後、外部有識者に助成適正評価を依頼します。
- 外部有識者により助成適正の評価を得た子ども食堂に関して、専務理事に意見具申を行った後、理事長の決裁により助成決定します。なお、助成申請金額を減額して助成金額を決定する場合があります。
- 助成が決定した後、事務局から申請者に助成決定通知を行います。併せて、お届けの振込先銀行口座に助成金の振込手続きを行います。（前払いです）

事業報告

- 事業完了後1ケ月以内に、事業報告書（事業実績等）、収支決算書、支出を証明する書類（領収書）のコピーなどを当基金事務局までご提出ください。

提出方法および提出先

- 電子メールの場合　omron-kikin@omron.com
- 郵送の場合
  〒600-8234 京都市下京区油小路通塩小路下る
  公益財団法人 京都オムロン地域協力基金 事務局宛

お問い合わせ

公益財団法人 京都オムロン地域協力基金 事務局あて
〒600-8234　京都市下京区油小路通塩小路下る
電話 075-343-7211　携帯 090-8745-0147　E-mail：omron-kikin@omron.com